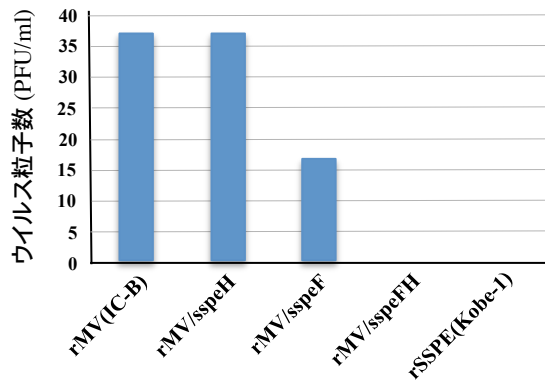


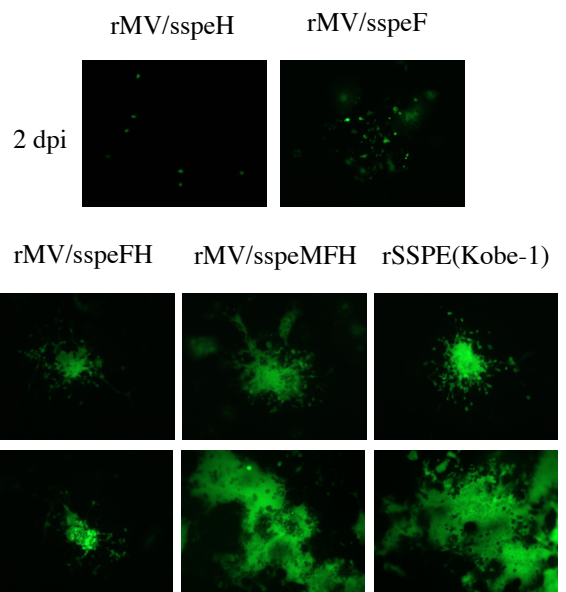
SSPEウイルスKobe-1株HおよびFタンパク質の機能解析

研究分担者: 神戸大学大学院医学研究科微生物学分野 堀田 博

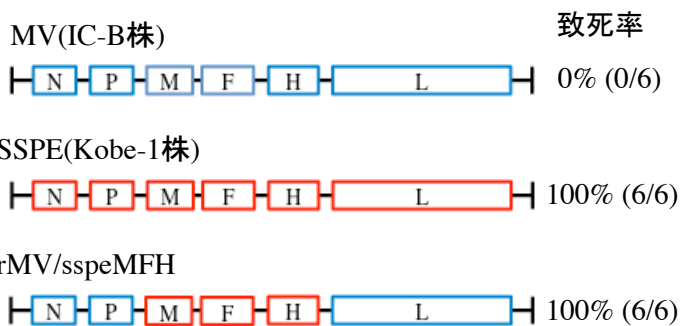
Kobe-1株FHタンパク質によるウイルス粒子形成抑制



Kobe-1株のMFHタンパク質を持つ組換え麻疹ウイルスの神経細胞(SH-SY5Y細胞)への感染



Kobe-1株のMFHタンパク質を持つ組換え麻疹ウイルスの神経病原性



解説

1. Kobe-1株のH及びFタンパク質を持つ組換え麻疹ウイルスは、ウイルス粒子形成能が著しく低下した。持続感染の成立に関与する可能性が考えられる。
2. Kobe-1株のH及びFタンパク質を持つ組換え麻疹ウイルスは、培養神経細胞への感染性を獲得した。さらにKobe-1株のMタンパク質が共存する組換え麻疹ウイルスは、多核融合巨細胞の形成を介して、周辺の細胞に効率良く感染が拡大した。
3. Kobe-1株のH、F及びMタンパク質を持つ組換え麻疹ウイルスは、H及びFタンパク質のみ変異の組換え麻疹ウイルスに比べて、著しく強いマウス神経病原性を示した。